

# 目 次

はしがき

## 序 章 本書の問題意識と目的 1

はじめに 1

- 1 本書の問題意識と目的 2
  - 2 先行研究の検討—政治改革の歴史的評価の比較— 8
  - 3 本書における歴史記述に対する基本的な考え方 27
- おわりに 34

## 第1章 竹下内閣期及び宇野内閣期 37

—1989年1月～1989年8月—

はじめに 37

- 1 有識者会議の設置とその提言 39
  - 2 後藤田正晴と『自民党政治改革大綱』 41
  - 3 宇野内閣の成立と第8次選挙制度審議会の発足 58
  - 4 野党の状況と政治改革に対する態度 64
- おわりに 68

## 第2章 海部内閣期 74

—1989年8月～1991年11月—

はじめに 74

- 1 海部首相のリーダーシップ 75
- 2 「政治改革推進派」と「政界再編推進派」—後藤田正晴と小沢一郎—  
80
- 3 第8次選挙制度審議会と自民党政治改革本部—小林与三次と後藤田正晴—  
88

- 4 第8次選挙制度審議会と『答申』 95
- 5 社会党の「政治改革推進派」—ニューウェーブの会の登場— 99
- 6 冷戦終結と国内における政界再編の始まりの時期 105  
おわりに 109

### 第3章 宮沢内閣期 115

—1991年11月～1993年8月—

- はじめに 115
- 1 宮沢政権下の出来事と宮沢首相のリーダーシップ 118
- 2 自民党内の動き—改革派と非改革派— 123
- 3 野党の動き—社会党を中心として— 130
- 4 小沢一郎と『日本改造計画』 136
- 5 細川護熙と『日本新党・責任ある変革』 141
- 6 武村正義と『小さくともキラリと光る国・日本』 146
- 7 山岸章の政界再編論 151
- 8 政治学者・ジャーナリストの立場 157  
おわりに 164

### 第4章 細川内閣期 171

—1993年8月～1994年1月—

- はじめに 171
- 1 1993年総選挙前の動き—連立協議の開始— 175
- 2 「並立制」推進での野党7党合意と細川連立政権の誕生 178
- 3 政党制をめぐる考え方の相違—二大政党制か多党制か— 182
- 4 社会党内の路線闘争—並立制への是非をめぐって— 187
- 5 連立与党と自民党の攻防 191
- 6 政治改革法案の修正と与野党合意 195
- 7 参議院での法案否決から細川・河野合意へ 199  
おわりに 205

## 第5章 「政治改革」後の日本政治をめぐる評価—— 213

はじめに 213

- 1 第3次民主党の形成過程をめぐる論点 214
  - 2 民主党政権についての評価(1) —政治家自身による評価— 219
  - 3 民主党政権についての評価(2) —政治学者たちの見解— 237
- おわりに 252

## 第6章 政党制と選挙制度をめぐる考察—— 262

はじめに 262

- 1 政党制をめぐる考察 263
  - 2 「一強多弱」現象と二大政党制 269
  - 3 選挙制度をめぐる考察 276
  - 4 戦前と戦後の比較から考える 283
  - 5 戦前と戦後の連続性と相違点 295
  - 6 小 括 299
- おわりに 303

## 終章 政治改革論議の本質と再考すべき政党制の問題—— 309

はじめに 309

- 1 政治改革期のまとめ 309
  - 2 政治改革論議の本質とは何だったのか 317
  - 3 再考すべき政党制の問題 325
- おわりに 331

あとがき

引用・参考文献

事項索引

人名索引